

1 学校教育目標

「県立学校における教育指導の重点」及び「人権教育取組の方向」を基盤に据え、本校の「正大・剛健・寛厚」の三綱領のもと、郷土に誇りを持ち個性豊かな人材の育成と規律ある活気溢れる学校づくりを目指す。

2 本年度の重点目標

- (1) 人権尊重の精神の涵養と勤労と基本的な生活習慣の確立、安全教育の徹底を図り、豊かな人間性の育成に努める。
- (2) 勤労と勉学を両立させる中で基礎学力の充実向上を図り、生徒一人一人の自己実現と社会に貢献できる人材の育成を目指す。
- (3) 心身の健康、体力の向上を図るとともに、体験的活動を通して自己肯定感を高めると共に創造性や感性の涵養に努める。
- (4) 地域で唯一の定時制課程の高校として、地域に開かれた学校づくりに努め、地域、保護者、生徒の信頼と期待に応える教育活動を進める。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	魅力ある学校づくり	学校行事等の充実を図られたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の意義を理解し、行事を通して達成感を得られた生徒の割合を100%にする。 ・行事の生徒の参加率が90%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制単独の入学式・卒業式・新入生歓迎行事をはじめ、行事の内容を工夫・精選する。 ・行事前後の生徒の指導、職員の打ち合わせや反省会の充実。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が行事に参加しやすいよう座席は配置を工夫したり、事前に行事の内容や意義についてわかりやすく説明したりしたほか、一人一人の役割分担や達成目標を設置するなどの工夫を行った。 ・行事に関して、生徒の意見を取り入れるなどの工夫をし、主体的な取組を促進した。 ・行事への生徒の参加率は、概ね90%を超えた。
		安心・安全な学習環境の確立できたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の学習環境を整える。 ・危機管理意識を高め事故の未然防止に努める。 ・授業中の徘徊・中抜けを「0」にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業時・終業時、合同SHR、行事の時の時間厳守・挨拶の指導を徹底する。 ・授業中の巡回指導を充実する。 ・非常時の危機管理についての研修を行い、事故の未然防止の重要性を確認する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始前に、授業への出席を促す声掛けを全職員で行い、単位修得のための支援を行ったほか、教師が率先して挨拶を行うことで、挨拶の習慣化を図り、落ち着いた状態で授業ができた。 ・精神的な理由から、授業を途中で抜け出す生徒については、チームティーチングの教師を中心に対応し、落ち着いて学習に集中できるよう援助を行い、状況が改善した。 ・非常時における危機管理に関する職員研修を実施したほか、配慮を要する生徒への対応について情報共有や職員研修を実施したことにより、突発的な出来事の際に活かすことがで

						きた。
不祥事防止及び、地域・保護者・生徒の信頼と期待に応える教育活動	日頃の危機管理意識の向上及び実践はできたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事を「0」にする。 ・定期考査及び入試事務処理時等の個人情報管理を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事全般に関するセルフチェックシートによる定期的な確認（第3水曜日）を行う。 ・日々の行動及び物品管理の徹底をする。 ・個人情報管理の共通理解事項について、確認シートを作成し全職員が共有する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事発生の要因等について、全職員で研修を繰り返し実施して、現場から不祥事を発生させないための留意事項について検討した。 ・毎月セルフチェックシートを活用し、不祥事防止や事故のメンタルヘルス等についてセルフモニタリングを継続して行うとともに、悩みなどを相談しやすい雰囲気づくりのための職員間での会話の機会を多く設けた。 	
	教育活動の公開は十分か。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙の発行（月1回発行） ・HPの充実（月2回以上更新） ・年1回以上の公開授業（参観）を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員で分担し、広報誌（定時制新聞）を発行し、学校ホームページに掲載するとともに、近隣の中学校及び生徒の就業先の事業所へ毎月郵送する。 ・行事ごとにホームページの更新を行う。 ・教務部で公開授業の年間計画を立て実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定時制新聞については学校ホームページへの掲載、近隣中学校及び生徒の就業先の事務所に加え今年度は、学校評議員、振興会役員、生徒支援等の関係機関へも毎月郵送した。 ・主な行事についてホームページに更新することができた。しかし、更新タイミング遅れたりしたので、常に最新の情報を更新できるようにしたい。 ・公開授業については、全職員が実施することができた。他教科の授業を見学することで、職員同士も深い学び合いができた。 	
学校改革	校務改革は図られたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務環境を改善し協働体制を整え、業務の効率化に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に意見を出し合い、学校の課題を洗い出し、課題を認識するとともに全職員で共有する。 ・課題を分析して改善策を検討し、改善内容を確認・実践する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校務改革に向けた職員研修を実施したほか、労働安全衛生面に関して各職員からの意見を聞くアンケートの実施や、その内容について協議する場を設けた。結果として、次年度に向けて、勤務時間の改訂等の改革が進んだ。 	
	授業改革は図られたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で授業改善に努め、生徒により質の高い教育を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を実施するうえで困っていることについて、相談したり、研修を行ったりして、思っていることを出し合い、効果的な指導のあり方や教材研究 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の観点を新たに盛り込んだ研究授業等を実施したことで、指導方法や教材提示の仕方をはじめ、ユニバーサルデザインの観点からの配慮等について全職員で検討することができた。 ・1、2年生を中心にチームティーチングを 	

				に取り組み、授業改善を図る。		実施したことで、教職員が相互に授業を参観する機会が増えて、自身の授業改善に大いに役立った。外部からの参観者が増えるための工夫が必要である。
学力向上	主体的に学習する習慣・態度の育成	積極的な授業参加は図られたか。	<ul style="list-style-type: none"> 出席率90%以上を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒との良好な人間関係を構築するために、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」という姿勢を大事にして積極的な声かけを行う。 欠席や欠課が多い生徒に対しては、面談や家庭訪問を行い、保護者との連携など早めの対応を心がける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 出席率は全体で89.6%とわずかに目標値に達しなかったが、昨年度と比較すると、3.6%の上昇がみられた。欠席は特定の生徒に限られており、13人在籍している1年生の出席率が一番よかった。 欠席が多い生徒が抱える特性や課題については、教職員間で特に情報共有の機会を増やすとともに、スクールカウンセラーや市役所福祉課、保健所、ハローワーク等の関係機関と連携を図り、様々な支援の在り方について検討し、生徒及び保護者の支援に当たった。
		学習習慣の確立は図られたか。	<ul style="list-style-type: none"> 課題や提出物の提出率を60%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力向上のため、夏休み及び冬休みの期間に課題を課し、提出状況を確認する。また教科担当者と連携を図り、未提出者を減らす努力をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 60%以上の提出ができていない教科が多い。ただ、学年によってばらつきが大きい。長期休業後の課題考査として実施している「学力コンテスト」の参加率がだんだんよくなっている。
	指導力向上や授業充実に向けた取組	授業評価の実施及び結果の活用はできたか。	<ul style="list-style-type: none"> 授業に満足している生徒の割合80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の授業アンケートを実施し、検証する。 授業改善を図り、能動的な授業を実践する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートの結果をみると、授業の満足度は高い。わかる授業を実践できている証拠である。 アンケートの結果を参考にしつつ、生徒の意欲関心を引き出すための工夫として、理科や数学など多くの教科で体験的な授業を多く導入し、生徒の主体的な取り組みを導き出すことができた。
		研究授業の充実は図られたか。	<ul style="list-style-type: none"> 全授業担当者による年間1回以上の研究授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務部で企画し、日程調整を行い、研究授業、合評会を充実する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 4週間の期間内に、各教科で工夫して取り組んでいる。授業改革の視点をテーマとした研究授業を行い、他教科からの意見をもらうことで、各担当者が参考と

						なることが多かった。
キャリア教育 (進路指導)	個々の能力・適性に 応じた就職・進 学指導	進路決定率の 向上はできた か。	・進路決定率を 100%にする。	・進学、就職、 希望に応じた 個別指導を徹 底する。	A	・卒業生はいなかつたものの、授業改善や個別指導については、昨年度以上の取組が見られた。今後は、更なる研鑽も必要である。
	社会人として必要 な資質を身に付け 働く意義を知る取 組	就労率の向上 はできたか。	・就労率を70 %以上にする。	・ハローワーク に適宜訪問し て情報収集に 努め、ジョブ カフェと連携 し就労への理 解を深める。 ・就労のための 個人面談を学 期に1回行う。	A	・今年度は、1学期から1年次生の就労意識が高く、就労経験率は91%を超えた。それに伴い、ハローワークとの連携も十分に取ることができた。 ・今年度より、進路検討会を設定し、個々の生徒の進路希望を把握したことで、より効果的に学習指導や生活指導に役立てた。
	望ましい 勤労観・ 職業観の 育成	キャリア意識 の醸成は図れ たか。	・年間4回のロ ングホームル ームをより充 実したものにする。	・進路指導部で 立案し、全職 員による理解 の上、ロング ホームルーム を実施する。	A	・年間4回のキャリア教育を実施した。各回で具体的な目標を設定・共有し、順調に実施することができた。生徒たちも真剣な姿勢で参加していた。
生徒指導	基本的生 活習慣の 確立を図 り、学校 生活への 適応を促 進	規範意識の醸 成は図れたか。	・学校に楽しく 登校する。 ・遅刻・欠席を 前年より減少 させる。 ・毎日の学校生 活において、 機会を見逃さ ず根気強く指 導する。	・定時制プロジ ェクトとして 、毎月1回無 欠席ウィーク を設け、意識 の高揚を図る。 ・登校指導及び 各ホームルー ムでの声かけ を毎日実施す る。	B	・様々な学校行事を企画し、積極的な言葉かけを行い、職員との信頼関係の構築を目指してきたことで、生徒が学校が楽しく、何でも話せる場となってきた。そのことが欠席の減少につながっている。 ・無欠席ウィークを設けているが、遅刻欠席の減少に直接つながっていないように思われるため内容の再検討が必要である。
		生徒理解のた めの取組は十 分か。	・生徒の実態把 握、共通理解 のため、連絡 会を毎月実施 する	・月に1度、各 担任が、生徒 一人ひとりの 状況について 報告し、全職 員で情報を共 有し、その対 応策を話し合 う。	A	・毎日の始礼において前日の生徒の様子を報告し、毎月の月初めに生徒連絡会を行い生徒の状況を全職員で共有したことで迅速な対応を講ずることができた。 ・即時的な対応や問題の未然防止に努めることができた。 ・職員間の意見交換が積極的にできた。 ・生徒・職員間の信頼関

						<p>係は構築されてきたが、生徒の背景を理解し、家庭との信頼関係を築くために家庭訪問や保護者に来校いただき、情報交換を行うための場の設定が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・S Cの有効活用ができた。
	年間を通じた問題行動の未然防止	問題行動の未然防止は図れたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別指導件数を「0」にする。 ・年間を通しての登校指導校内巡視を実施する。 ・機会を見逃さず集会や個人面談等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や情報を共有し前年の統計等を見て、注意喚起を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「PJ集会」や長期休業前の集会などで注意喚起を行い、「長期休業中の心得」を各家庭に郵送し、問題行動等の未然防止に努めることができた。 ・日頃の学校生活の中で機会を捉えて指導することができた。
		交通事故防止は図れたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・事故件数を「0」にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇前や、行事後、前年統計等を見て集会を開き注意喚起を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般において継続的に注意喚起をおこなったことで生徒の交通安全に対する意識の向上につながった。 ・本年度交通事故は「0」であった。 ・来年度も警察をはじめとする関係機関と連携を図り、交通事故違反「0」を目指すとともに交通安全教育の充実に努めたい。
	生徒会活動及び学校行事の活性化	生徒の主体的活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事への生徒会の参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会における企画立案への助言を行う 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事において生徒会が司会を行い、円滑な行事運営に貢献した。 ・クラスマッチでは企画立案をし、安全に活発な活動ができた。
人権教育の推進	職員の人権感覚の向上	職員研修の充実は図れたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員人権意識の向上を目指し、研修機会を確保する。(年間4回の研修実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会で検討した内容について全職員に共通理解を図る。 ・全日制との合同研修を設ける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人権推進委員の教職員が、年4回の研修計画及び実施を担当者を決めて行った。教職員の知識理解と人権意識の向上につながった。 ・勤務時間の関係で全日制との合同研修を実施することが難しいが、本年度は1回合同研修を行った。今後も計画的に連携して実施する必要がある。
		自己実現のための支援は十分か。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に明確な将来像(目標・夢)を確立させ、実現に向け努力させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考査期間を利用して、年間5回の個人面談を実施し、将来像を具体化するともに、「言わな 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担任・副担任を中心に面談の充実を図り、将来像を明確にさせてきたことで、日ごろからコツコツと目標に向けて勉強に励む姿が多く見られた。また、場面

				い書かない」の精神を定着させる。		ごとに必要な支援を全職員で情報共有しながら行った。 ・目標を明確にできない生徒への支援が難しく保護者との情報共有と連携が必要である。
いじめの防止等	「命を大切にすることを育む指導」の充実	自尊感情の醸成は図れたか。	・「命を大切にしている心」の基盤となる自尊感情の要素となる自己肯定感、自己有用感、自己効力感を養う。	・自尊感情を高めるための日常の言葉かけを積極的に行う。 ・視聴覚教材や外部団体・講師等を活用したロングホームルームの充実を図る。	B	・生徒の背景を理解し、生徒が話をしやすい環境づくり、雰囲気作りを全職員で取組んだことで、職員との信頼関係の構築を図ることができ、自尊感情を高めることにつながった。 ・生徒同士の関係構築が難しく、学校行事や授業の中に様々な仕掛けを組込むことでさらなる充実を図る必要がある。
		いじめを見抜く力の育成は図れたか。	・校内でのいじめ「0」を目指すとともに、早期対応に心掛ける。	・始礼や連絡会をとおして生徒の現状把握に努め、職員共通理解のもと、いじめ防止に努める。	B	・情報共有を積極的に行ったことで生徒理解が深まり、職員の積極的な声かけによりいじめの未然防止につながった。
特別支援教育	インクルーシブ教育の観点をつまえた、特別な支援を必要とする生徒への適切な対応	生徒一人一人に関する正確な実態把握と支援	・個々の状況を整理分析し、学びのUD化の視点を取り入れた、支援計画・指導計画等を作成して活用する。	・教頭・特別支援コーディネーターを中心として、個別の支援及び指導方法について、全職員での共通理解を図るための連絡会及び研修を行う。	B	・学習面、生活面ともに生徒の特性に合わせた指導となるよう、日々の情報共有が密に行われた。 ・夏休みには巡回相談を活用し職員研修を実施した。 ・支援方法や経過の記録などを今後強化していくことが課題である。
地域連携	地域と連携した安全管理体制の構築	防災型コミュニティスクールの設置及び活用はできたか。	・関係機関と連携して、緊急時の連携体制について協議会を開催し確認を行う。	・全日制と情報を共有しつつ、時間帯毎の緊急体勢の確認を明確にする。	A	・マニュアル作成を全日制と協力し実施した。地域の方や関係機関との連携を図ることができた。 ・他校の取組の良い所や専門家の意見を取り入れることができた。 ・夕方の時間帯における緊急体制の具体化が必要である。
	ボランティア活動及び地域行事への参加	地域の活動に積極的に参加できたか。	・年間を通じ生徒が地域ボランティアや地域行事に一度は参加する。	・各方面からの参加の案内や地域広報などについて、生徒に周知し積極的な参加を呼びかける。	B	・ボランティアへの呼びかけを行い、参加意識の高揚に努めることができた。 ・ボランティアへの参加率の向上にはつながっていないため、参加しやすいボランティアの開拓や行事予定への組み込みなど工夫改善

						が必要である。
健康安全教育の推進	健康に関する意識の高揚と環境保全意識の向上	健康教育等の充実を図れたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期及び適時の保健指導を行う。個々の生徒、また時期的な傾向に応じて、予防的指導を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月1週間生活習慣をチェックし、睡眠・食事について個別に保健指導を行う。 ・ 月1回「保健だより」を発行する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活習慣チェックは予定どおり実施することができた。生活習慣チェックに記入しない生徒への指導に不十分な部分があったこと、また、課題解決のための具体的な活動の実施が課題である。 ・ 保健だよりは毎月の発行に加え、長期休業前の発行も行った。
		環境教育の充実を図れたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年3回エコスクール週間を中心に生徒の環境意識向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学期に1回、環境ISO委員会を中心に計画し、検証・改善を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「エコスクールチェック」集計・分析を環境ISO委員が行い、全校生徒への評価・改善呼びかけを行った。
	体力向上と安全教育の推進	安全教育等の充実を図れたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全教育・物乱用防止教室を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導部、保健体育部及び関係機関と連携を図りながら、企画する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関（天草警察署・消防署・税関）と連携を図り行事を実施したことで、交通安全・薬物乱用防止等についての意識高揚につながった。 ・ 生徒の感想から内容の知識理解はできているが特に喫煙についてはその後の行動（禁煙）につながっていない現状がある。保護者や関係機関等との連携を図り、状況改善につなげていく必要がある。
		体力・気力の向上は図れたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定通体育大会・ラソン大会等、体育行事に積極的に参加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健体育部が中心となり生徒一人ひとりに応じた計画的な指導を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育的行事への参加状況は良好で、得意・不得意に関係なく、積極的な活動や笑顔が多く見られた。 ・ 行事と授業に関連性を持たせ、計画的な指導を実施したことで参加率向上につながった。 ・ 集団活動（コミュニケーション）を苦手とする生徒も見られるため、生徒会や保健体育委員会と連携を図り、生徒の意見を積極的に取り入れ、全生徒が参加できる環境整備を図る。

4 学校関係者評価

年間2回（9月・2月）の学校評議員会及び定時制振興会総会（5月）を開催し、定時制の取組について関係者へ報告を行うとともに意見を聞いた。

特に、学校評議員会においては、「学ぶ楽しさを感じ個性豊かに輝く人材の育成」という教育スローガンの下、中学校までは不登校傾向であった生徒や特性によって学びづらさを感じていた生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導や支援がなされていることについて高い評価を頂いた。これらの支援をなし得るために、教職員一丸となって生徒理解に努め、情報共有を行い、組織的に対応しようとする意欲が強い点について、今後も継続して欲しいとの要望もあった。また、就労しながら学んでいる生徒が、地域社会において意欲的で真面目な態度で仕事に当たっている姿を頻繁に見かけ、地域社会から高い評価を受けていることが評判になっていることなどについて情報提供があった。

5 総合評価

本校定時制課程に在籍する生徒は、中学校や前籍高校在学時、中には小学校の時から不登校や教室には入れないなどの傾向を有する者が少なくない。そのため、基礎的な学習習慣が定着していない生徒も多い。さらには他者とのコミュニケーションを苦手とする生徒や、これまでに成功体験に乏しく自尊心が低い生徒も多く見られる。このような認識の下、教育目標及び重点目標に沿って日々の教育活動に当たった。

- (1) 「人権尊重の精神の涵養と勤労と基本的な生活習慣の確立、安全教育の徹底を図り、豊かな人間性の育成に努める。」
生徒一人ひとりの特性に応じたきめ細やかな支援のために、全教職員の情報共有を徹底するとともに、必要に応じて外部専門機関と連携してチーム会議等を実施した。また、生徒が互いの特性や違いを理解し、相互に尊重し合うことができるように様々な観点から人権教育に取り組んだ。また働くことの意義ややり甲斐を認識できるようキャリア教育の内容の改善を図った。その結果、生徒の日常生活において、共感性や協調性に溢れた言動や、目的意識を持った行動が見られるようになった。
- (2) 「勤労と勉学を両立させる中で基礎学力の充実向上を図り、生徒一人ひとりの自己実現と社会に貢献できる人材の育成を目指す。」
ハローワークと連携を図りアルバイトの奨励を行った結果、就労率が8割を超えた。地域社会における学びをとおして他者から認められる体験をしたことで、さらに意欲的な勤労態度が培われるとともに、学習意欲の向上も見られた。
- (3) 「心身の健康、体力の向上を図るとともに、体験的活動を通して自己肯定感を高めると共に創造性や感性の涵養に努める。」
生活習慣チェックを毎月実施し、睡眠や食生活等の生活習慣について生徒に自覚を促し、その傾向について随時指導を行った。また、定時制通信制の体育大会や文化祭をはじめ郷土料理教室などの体験的活動への参加を働きかけ、自己肯定感や自己有用感及び達成感を味わうことができる場面や、他者と協働する楽しさを感じることができる場面を多く設定した。
- (4) 「地域で唯一の定時制課程の高校として、地域に開かれた学校づくりに努め、地域、保護者生徒の信頼と期待に応える教育活動を進める。」
生徒の活動の様子をまとめた定時制新聞の配布箇所を増やすとともに、内容をより視覚的にして関係機関への広報に努めた。生徒のキャリア形成の支援の充実のため、進路検討会を新たに実施し、生徒に応じた指導や支援の在り方について共通理解を図るとともに、進学希望者に対する個別学習を継続して行った。また、昨年に引き続き、夏季休業中に生徒の出身中学校を訪問し、生徒の近況について情報提供を行った。

6 次年度への課題・改善方策

地域における唯一の定時制課程の高校として、個別の支援を必要とする生徒の学びの場、不登校傾向にあった生徒の学び直しの場としてのニーズはますます高まることが予想される。特に、個々の生徒に応じた支援体制の構築については、本年度ある一定の成果を得ることができたが、今後、状況の変化に伴いさらにきめ細やかな対応は必要となると思われる。引き続き教職員で共通理解を図りながら、保護者や関係機関と連携した支援を行う必要がある。

そこで、次年度においては、本年度の取組を踏まえつつ、特に次の点について改善を行う予定である。

- (1) 基本的な生活習慣の確立に向けた、時間厳守、適切な言葉遣い、ルールやマナーについての指導の工夫。
- (2) 基礎学力定着のための「わかる授業」の工夫改善
- (3) 生徒の特性や学力に応じた指導・支援の充実